



最初にお読みください

CentreCOM® AR450Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR450Sをお買いあげいただき誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M3069-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3069-03 Rev.J）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.8.1-02

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.3-08 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR450S コマンドリファレンス 2.8」（Rev.J）をご覧ください。

2.1 PPPoE AC 機能

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

これまで PPPoE のクライアント機能に加えて、AC（Access Concentrator）機能がサポートされました。PPPoE のクライアントとして動作と、PPPoE AC の併用も可能です。設定は、新しく追加された ADD PPP ACSERVICE コマンドで行います。

2.2 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（BGP-4）」

ルーティングプロトコルとして BGP-4 に対応しました

2.3 L2TP : LAC 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」

L2TP の Access Concentrator（LAC）に対応しました。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.3-08 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR450S コマンドリファレンス 2.8」（Rev.J）をご覧ください。

3.1 OSPF 関連機能の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御（OSPF）」

OSPF 関連機能を以下のとおり拡張しました。

- 準スタブエリア（NSSA: Not-So-Stubby-Area）を作成できるようになりました。
- OSPF インターフェースのコストを実際のリンク速度に基づいて自動的に計算できるようになりました。

- MD5 ダイジェスト認証に対応しました。
- OSPF に取り込める BGP-4 経路の数を 300 から 4000 に拡大しました。

3.2 OSPF：ユニキャストによるメッセージ交換

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

VLAN 上において、OSPF のメッセージ交換をユニキャストで行えるようになりました。設定は、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された NETWORK パラメーターと、ADD OSPF NEIGHBOUR コマンドで行います。

3.3 OSPF：パッシブインターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

OSPF パケットの送受信を行わない特殊なインターフェース (パッシブインターフェース) をサポートしました。

パッシブインターフェースでは OSPF パケットの送受信を行いませんが、同インターフェースに接続されているネットワークの情報は、スタブネットワークとしてルーター LSA に追加されます。

パッシブインターフェースを作成するには、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された PASSIVE パラメーターに ON を指定します。

3.4 OSPF：AS 外部経路の集約

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

AS 境界ルーター (ASBR) において、AS 外部経路を集約してから AS 内に通知する機能が追加されました。設定は新しく追加された ADD OSPF SUMMARYADDRESS コマンドで行います。

3.5 OSPF：AS 外部経路取り込み時の詳細設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

AS 境界ルーター (ASBR) において、AS 外部経路を取り込むときに、取り込む経路の数に上限を設けたり、メトリック、メトリックタイプ、経路タグなどを任意に設定したりできるようになりました。設定は新しく追加された ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドで行います。

3.6 IP フィルター設定の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP フィルター」

これまでの IP フィルターの仕様では、IP フィルターの種類ごとに使用可能な ID の範囲が固定になっていましたが、任意の番号の ID に対して、IP フィルターの種類を設定できるようになりました。

設定は、ADD IP FILTER コマンドに追加された TYPE パラメーターで行います。

3.7 IPsec : Invalid SPI 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ルーターが、自身の知らない (SA を持っていない) SPI 値を持つ ESP パケットを受信した場合に、フェーズ 1 から ISAKMP ネゴシエーションを開始し、新たな SA を作成するように仕様を変更しました。また、その際、INITIAL CONTACT message を送信するようにしました。

3.8 ISAKMP リトライインターバル拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

これまでの ISAKMP ネゴシエーション時における再送処理は、最初のパケットに対するタイムアウトを設定すると、その値を基準に再送間隔が徐々に長くなるような動作仕様でしたが、その再送間隔を一定間隔に変更できるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された MSGBACKOFF パラメーターで行います。

また、MSGTIMEOUT および MSGRETRYLIMIT パラメーターのデフォルト値も変更されました。

3.9 IPsec : フェーズ 1 リトライ拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ISAKMP フェーズ 1 / フェーズ 2 のネゴシエーションの際に、パケットロストなどが発生して正常にネゴシエーションが完了しなかった場合、リトライを指定回数行えるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された RETRYIKETTEMPTS パラメーターで行います。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.3-08 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 PPP において無通信時切断タイマー (アイドルタイマー) が設定されている場合、PPP モジュールを有効後、ネゴシエーションを開始しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.2 VLAN と eth 間のブリッジと IP モジュールの併用時において、IP モジュールが呼び出されるたびに、FDB が全て eth のブリッジポートに変更されていましたが、これを修正しました。
- 4.3 ASBR が AS 外部経路を削除する際に、他の更新事項のない AS 外部経路の更新を行うことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 ファイアウォール使用時、RTSP サーバーからの再送パケットに追加データが付加されていた場合、該当パケットを正しく転送できず、結果的にクライアント側においてストリーミング再生が停止することがありましたが、これを修正しました。

- 4.5 UPnP 使用時に、リモートホストから FIN に対して 3 ウェイハンドシェイクによるセッションの開放が行われているにもかかわらず、本製品上では TCP のセッションが保持され続ける現象を修正しました。
- 4.6 UPnP モジュールを使用している場合、M-search パケットを受信することによって、メモリーリークが発生する可能性がありましたが、これを修正しました。
- 4.7 VRRP を使用した場合、WAN インターフェースから送信される Advertizing message に 802.1q のタグが付加される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.8 L2TP、PPPoE、ブリッジを併用した場合、本製品あての通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.9 CREATE ISAKMP POLICY コマンドにおいて、POLICY パラメーターに 24 文字のポリシー名を設定することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.10 CREATE/SET IPSEC SASPECIFICATION コマンドの INSPI/OUTSPI パラメーターにおいて、指定できる SPI 値は 65535 までに制限されていましたが、最大値 (4294967295) まで指定できるよう修正しました。
- 4.11 ISAKMP SA がハードリミット満了前の 2 つある状態で、片側の ISAKMP SA より送信されたハートビートパケットのみが 3 回連続到達しない場合、片側ルーターのみ IPsec SA が削除され、通信が行えない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.12 PPPoE とローカルルーティングの両方において IPsec を使用する場合、IPsec のローカル IP アドレス設定が正しく行われない現象を修正しました。

5 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM AR450S コマンドリファレンス 2.8 (J613-M3069-03 Rev.J)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M3069-03 Rev.J」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>